

おおいたツーリズム大学 第3回オンライン講座 発言要旨

日 時：11月9日 13時30分～15時15分

議題：7月豪雨被災地の現状と復興に向けた取組について

参加者	発言要旨
<p>諫山 泰崇 氏 (第7期生/小京都の湯みくまホテル)</p>	<p>【被害について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日田温泉での被害は、屋形船10艘、モーターボート4艘が流された <p>【現状と課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GOTOの効果は出ているが、11月でみても半分以下。平日は伸び悩んでいる ・新規プランを5～6個作っており、壱岐出身の支配人提案の「壱岐海鮮と壱岐牛プラン」が好調 <p>【コロナについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡からのお客様が多く、現在は観光ベストシーズンで11月は悲観していない。今後は厳しい ・屋形船をどう守っていくかが課題（2年前も5艘流された。10年前は38艘あったが、今は14艘） ・観光ではなく、気軽に寄れる場所を目指す。育て世代（ファミリー層）を受入れることの口効果も有効
<p>三苫 真依子 氏 (日田市役所観光課)</p>	<p>【被害について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天ヶ瀬は、河川が氾濫し住宅地は浸水、1階部分の3分の1が浸水。成天閣の橋が流された ・旅館は16軒中8軒しか営業できていない。夏に向けて営業したいと言う気持ちで取り組んでいる <p>【現状と課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おひな様のお祭りは実施予定 ・営業していない宿から天ヶ瀬温泉を忘れて欲しくないとの意見があり、早期復興を願う花火を予定通り実施。暗い旅館街を明るくしようと前向きに取り組んでいる <p>【コロナについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久大本線の橋が流されたとき連携ができた広域観光（日田、九重、玖珠、由布）で協議会を作り、横の連携を大切に魅力発信している
<p>矢野 史和 氏 (宝泉寺観光ホテル湯本屋)</p>	<p>【被害について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合に入っているのは8軒。非加盟宿も入れると10数軒。現時点で4、5軒は未だ営業できていない <p>【現状と課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GOTOの効果で、お客様は9月で前年に足りない程度。10月、11月も好調 ・35部屋あるうち、GOTO効果で単価の高い部屋から予約が埋まった ・ターゲット層は、個人向けにシフトし、カップルや40代夫婦向けがほとんど。料理を個人向けに見直し、個室風呂を設置し、一年かけて見直した（韓国の影響が良い機会になった） ・九重エリアは単価7,000円～10,000円前半が相場だが、単価を上げることを目指している
<p>麻生 幸次 氏 (湯平温泉観光協会)</p>	<p>【被害について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯平は温泉が配当制で、ほとんど流されたため9月は全面休業 ・湯平観光協会に属す20軒中、被害は3軒 <p>【現状と課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のGOTOキャンペーン地域クーポン付与後、ほとんどの宿が前年比と変わらない予約あり ・亡くなった方の意思を継ぎ、追悼・勉強を兼ねて、非公開コスプレイベントを11月に実施予定 ・湯平の提灯も灯り、活気を取り戻すため12月に神楽祭を実施予定 <p>【コロナについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯平自体家族経営がほとんどで、元々個人層向けの温泉地 ・価格設定のせいか年若いお客が多いため、団塊世代へのアプローチが課題
<p>チューター</p>	<p>【三浦チューター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の中で以前からの課題をどのように解決するかが重要 ・コロナも豪雨も悲しいことではあるが、次に繋げようと前向きに頑張る姿に心を打たれた <p>【米田チューター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代はコロナ終息時に、旅行する体力がない可能性もある ・若年層ターゲットはそのままに親孝行プランをつくる等のアプローチを行うといいのでは ・コロナによって循環型・滞在型が普及加速し始めている今、目的が異なる旅行が増えている市や地域を越えて流れを理解しながら取り組んでいくべき（例：Address） ・観光系の人は観光でしか考えられない思考を変えるべきである